

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達で作上げた理念が、日々の関わりの中で具体的に実現されているか振り返る事が出来るように職員の目にとまる所(スタッフルーム・玄関)に掲げ意識づけしている。	理念を玄関他、スタッフの目に触れやすい場所に掲示している。また、「みんなが主役」であるように、利用さん本位で自由に生活できるよう理念を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物に出かけ、挨拶を交わしたり、庭の花木を頂いてお礼に畑の野菜をおすそ分けをしたり、人々との関わりが自然と行えている。	近隣の人たちが立ち寄りやすいように、普段から交流を持つように努力している。小学校の下校時刻に合わせて散歩をすることで、生徒と触れ合ったり、また、職員が地域行事へ積極的に参加して、地域との繋がりを深めたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー2級実習の受け入れをする事で、人材育成に役立てればと考えている。オープンにする事で寄り添って関わり、認知症を理解してもらえるよう努力している。また、入居者さんの不安や混乱に繋がらないように職員が間に入っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でも外部評価等で取り上げられた検討事項に対し取り組みを報告し、意見をもらったり協力依頼をしたりしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、地域の人たちの意見や要望を聞くようにしている。行政に参加の働きかけはしているが、現実には難しいようである。今後、近くの保育園情報を収集したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新調査時等、市の担当者訪問時には、利用者の暮らしぶり等、具体的に伝える事のできる良い機会となっている。	担当ケースワーカーがホームへ訪問した際、相談や日常の様子等を話している。また、行政窓口へはオーナー自ら足を運んで、相談やケアサービスの取り組みについて話し合いが持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を確保しつつ鍵をかけずに自由な暮らしを支援する為に入居者さんの心身の状態を細かくキャッチするよう寄り添いをしている。また、ご家族等への説明を行い理解、協力依頼をしている。	玄関を施錠しないで、自由に施設内の庭や畑に出入りができるよう工夫されている。職員は身体拘束に関して、ケアカンファレンス等で理解を深め、実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実例をケアカンファや勉強会で具体的に考えるようにする事で、職員の意識の向上につなげるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について講演会を開催し制度について学ぶ機会を持ち、対応が必要と思われる場合には、専門家よりアドバイスを頂ける様に支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明するよう心がけている。特に事業所のできる事、できない事を明確に説明すると共に、起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制について詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんには共に生活する中で、共同決定できるよう配慮している。また、ご家族には、気兼ねなく訪問して頂けるような雰囲気作りや、何でも相談して頂ける雰囲気作りを心がけ、意見は、職員間で話し合い、反映させている	ご家族が施設へ頻繁に来て頂けるよう、ご家族支援に力を入れている。また、ご家族⇄職員との間で意見等の交換が気軽に行えるよう、日頃からの関わりを大切に、来訪しやすいような雰囲気作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員に声をかけ、気兼ねなく意見を挙げられる様にすると共に、カンファレンスや勉強会を月に1回行い、情報や意見を得る機会を作っている。また、定期的に個人面談を行い話を聞いている。	スタッフの意見等を汲み取るため、定期的に個人面談を行い、管理者とスタッフとの良い関係づくりに努めている。また、新人職員に独自の研修制度を活用し、より良い運営・職場づくりに向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、職員が向上心を持って働けるようにしている。また職員の疲労やストレスが集中しないよう、お互いの仕事を理解しコミュニケーションが取れるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の重要性を認識し職員の立場や経験に応じて研修の機会を確保している。また、事業所外の研修の情報を提供し、受講を勧めている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームでの実習や研修を実施する事で、実施の振り返り、見直しに繋がっている。また、ヘルパー実習生の受け入れにより他者からの意見や指導時の経験をケアに取り入れる事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より相談があった時には、必ずご本人と一緒に足を運んで頂き、ご本人と向き合うようにしている。また、ご本人に受け入れて頂ける様に、何度か遊びに来て頂き納得してからの利用に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今困っている事、不安に感じている事をしっかり聞き取り、どのように対応できるか検討し、きちんと説明し理解して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や、不安に感じている事に対して、できる事は速やかに実行し、できない事は、どうすれば近づけるか対策を検討するよう努めている。何事にも逃げ出さない姿勢から信頼関係を徐々に築けるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側 される側という意識を持たず、共同生活の中で共同決定する場面を多く持ち、お互いに思いやりや感謝が自然とできる関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとっても施設にとっても家族の支えは、かけがえのない大きい存在であることを説明し理解して頂く。入居する事でいい距離を保てるように配慮し、家族が訪問しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても、家族、知人等が気兼ねなく訪問して頂ける様に配慮したり、電話や手紙での繋がりを継続できる支援をしている。また、入居時、馴染みの物を持ち込んで頂き心地よい環境作りに努めている。	自宅近くへドライブに行ったり、手紙や電話などで連絡を取り合ったりしながら、入居者さんがこれまでに大切にしてきた関係が途切れないよう、積極的に交流を図る努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となれるように目配り気配りを行っている。また、体操、散歩、ドライブ等楽しみを共有する事で、関係作りができる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた場合、支援状況等を提供すると共に情報交換を行い、関係作りに役立てて頂けるよう配慮する。また、機会を作って訪問したり、手紙や電話での繋がりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いに寄り添い、何を望んでいるか把握に努めている。日々の関わりの中で、言葉や表情、行動などから思いを汲み取れるよう、日頃から寄り添える関係作りに努めている。	スタッフは出来るだけ利用者さんに寄り添い、落ち着いた話が出来るとような雰囲気作りに力を入れている。その中で、利用者さんの思いや意向を汲み取り、サービスに生かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が心地よく、自分らしく暮らしていくことを支援する為に、日々の生活の中で馴染みの関係を築きながら、ご本人やご家族から、個々の生活歴等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のできる力・分かる力に注目し、どのような準備をすれば、できる事が増えるか暮らしの中で発見し、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、ご本人やご家族に思いや意見を聞き、暮らしを反映した介護計画となるよう心掛けている。また、職員全体でのカンファを行い、意見交換できる場を作っている。	普段のケアの中で現状を確認し、より良い方向への計画をカンファレンスを通じて話し合っている。その中で意見やアイデア等を見出し、日々のケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックスを準備し入居者さんの状態の変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせて、通院の対応をしたり、必要な時に、臨機応変なサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に運営推進会議、行事等に参加頂き、入居者さんと関わりを持つ機会ができる事で、認知症高齢者を理解をして頂く。入居者さんが安心して地域での暮らしが続けられるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医となっている。他科受診等も基本的には家族同行の受診となっているが、状況に応じて臨機応変に対応している。	提携医の往診の他に、入所前から関わりのある主治医への受診支援が行なわれている。また、歯科往診もあり、安心できる医療体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。また、日頃の寄り添いからの気づきを介護職から看護職へきちんと伝え連携することで早期対応ができるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法等の情報を提供し、定期的な訪問をしている。また、現状を把握し、施設内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設が対応できるケアの説明を行い、ご本人やご家族の意向を踏まえ、医療との連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認を行いながら取り組んでいる。また、職員全員が方針を理解し、取り組めるよう話し合いを行っている。	重度化や終末期については、事前に家族の意向を伺い、主治医の協力の下、連携体制が整えられている。また、随時施設内研修において、看取りについての勉強会も行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。また、定期的に勉強会を行い、シュミレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に指導して頂き、避難訓練、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。また、近隣住民の方の協力が必要な事を説明し、理解して頂き、避難訓練に参加して避難経路の確認を一緒に行っている。	近隣の方々にも協力してもらいながら、年2回、避難訓練が行なわれている。また、訓練終了後の反省点を討議し、次回に向けての課題づくりに力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分がされて嫌な事は相手にもしない」そんな当たり前の事を心がけ、援助が必要な時も、さりげないケアを心がけている。また、個人情報についても、職員全員が守秘義務について理解し、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	プライバシー保護に留意するため、各居室に個々の趣味に合わせたのれんをかけたリ、ドアの開閉時には必ず声を掛けたりして、個人を尊重した対応が取られている。また、排泄時の膝にタオルをかける等して、羞恥心への配慮も行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんに合わせて声かけをおこない、言葉だけでなく、表情などからもキャッチできるよう日頃から寄り添うようにしている。また、職員が一方的に決めるのではなく共同決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、きっちり型にはめる過ごし方はしていない。一人ひとりのペースを大切にし本人のサインを読み取り散歩やドライブに誘い希望を尋ねたりするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣や入浴時の着替えは基本的にご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。また、行事等日頃からお化粧やおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんと畑で採ってきた野菜や近所の方に頂いた野菜をメニューに取り入れれたり調理での音や匂いを感じて頂いたり、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。	献立は利用者さんの希望も取り入れながら、栄養士の方が作成している。食材においては、畑で収穫した野菜や旬の物を取り入れており、季節が感じられるメニューとなっている。また、盛り付けに工夫を凝らし、食欲が沸くように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握できるようにしている。食事量や形態も個々に合わせて準備したり、嗜好品を準備したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、できない方に関しては食後のケアを行うようにしている。また、しっかり食べ続ける事ができるように口腔体操を行い嚥下障害予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さん一人ひとりのサインや排泄パターンをスタッフが把握しトイレでの排泄を大切にしている。また紙パンツやパット類も本人に合わせて使用できるよう検討している。	排泄の自立に向けて利用者個々の排泄パターンを把握すると共に、誘導時、羞恥心にも配慮しながら、個々の力を生かし・伸ばす支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩にも積極的に誘い、腸の動きを良くするようにしている。また、勉強会で水分補給の重要性をスタッフに伝え水分補給の徹底を行い便秘対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方向的に決めず入居者さんのその日の希望を確認し共同決定できるよう声かけを行っている。ゆっくり浸かりたい方は順番を後に回すなど工夫している。	個々の入浴パターンにできるだけ合わせる様、支援している。入浴拒否する人においては、スムーズに入浴できるよう、居室で聞いている歌をお風呂場で流したりしながら、入浴が楽しみの一つとなるよう、個々に合った入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝にむけてリズムが安定するよう工夫している。寝付けない時には温かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等配慮し薬に頼らないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かるように徹底している。処方の変更があった場合はカードックスに記載し、状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや畑作業等入居者さんの得意分野でお願いできる仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるように心がけている。また生け花や干し柿作りなど経験や知恵を発揮する場面をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも屋外に出る機会を作り、五感刺激を得られる貴重なチャンスとして日々の中で生かしている。	時間を決めないで、個々の希望に添った外出支援が行なわれている。また、できるだけテラスに出て、外気に触れる機会を設けるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心や満足の為、ご家族の理解を得て少額のお金を持っている人もいます。またお小遣い帳をつける支援を行っている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す為の支援を欠かさずに行っている。また入居者さんの希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活音や空気の流れが入居者さんにとって不快になっていないか、スタッフが常にアンテナをはって気配り目配りする様気をつけている。	落ち着いて過ごせるよう、共用の空間に明かりを取り入れたり、また、温度・湿度管理を確実にを行い、快適に過ごせるように工夫している。外部からの意見等も取り入れ、家庭的な雰囲気作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやデッキに椅子を置き、人の気配を感じながらくつろげる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい居室作りをする為に新しいものを揃えるのではなく馴染みの物が環境作りに欠かせない事をご家族に説明し協力して頂けるようにしている。	昔自宅で使用していた家具や装飾品を持ち込むこむことで、自宅の延長になるよう工夫している。また、ご家族来訪時の部屋も用意されており、ご家族の方と一緒に談笑できる環境作りにも力を入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何をサポートすればご本人のできる事が増えるだろうと常にスタッフ間でアンテナをはり、気づきを形にできるよう話し合っている。		